

平成 28 年度鹿児島県（枕崎市）地域社会なぎなた指導者研修会
中学校武道必修化特化型

日 程	平成 28 年 12 月 17 日（土）～18 日（日）
会 場	鹿児島県立枕崎高等学校体育館・総合学館
講 師	派遣講師…角 薫 範士、今浦千信 教士 地元講師…畠中良枝 四段、新坂知可子 四段
参加者	16 名（内、高校教諭 4 名、小学校教諭 1 名、鹿屋体育大学生 5 名）

概要

鹿児島県でなぎなたの中学校武道必修化特化型の研修会を開催するのは 2 回目。鹿児島県では 2020 年に国民体育大会が開催され、枕崎市はなぎなた競技の会場となる。現在、中学校武道必修化において県内ではなぎなたは採用されていないが、本研修会を実施することにより、将来なぎなたが採用されるようにと希望した。

はじめに角講師の講話「2020 年かごしま国体に向けて」と題して、国民体育大会の歴史、武道憲章を用いての「なぎなた（武道）」の授業、競技団体の役割、必修化に採用された時の対応、地域社会の指導者について等、自分の体験を交えながらの講義がなされた。

実技では、南さつま地区（南さつま市、枕崎市、南九州市）から参加した中学生、高校生を生徒と見なし、指導法の実践を行った。はじめに今浦講師による全体への指導を行ない、その後受講生による一対多数を実施。次に二人一組になり打突の確認と指導法の研究を行い、それに対し角講師と今浦講師による修正・指導があった。最後は防具をつけて全員で打ち込みをして初日は終了した。

二日目は、初日の復習を中学生・高校生グループと受講生グループとに分かれて実施。その後も授業を想定した指導法を行った。

午後は、二グループに分かれて、全日本の形を練習し、受講生は角講師より教授された指導法のポイントを中学生・高校生に対し実際に指導した。

二日目の最後も全員で防具をつけて打ち込みを行ない、特に上級者が元立ちとなり学生に指導しながらの打ち込み練習となった。

講師講評では、角講師は「二日間お疲れ様でした。2020 年の国民体育大会を盛り上げるため頑張ってください」と述べ、今浦講師は「今回学んだことを、他の指導者にも広く伝えてください」と述べ、研修会は終了した。



角講師による講話



お互いに指導しあう

参加者の声

- ・中・高校生への指導の様子を見させていただきだけで、多くの教えをいただきました。また、人生の中での礼節などを含めて、これからの生活に活かしていけると感じました。基本の動作を各段階に分けて細かく指導していただき、なぎなたの無駄のない動き、体の自然な動きの中に身を守る、攻撃するなどの要素が織り交ぜてあることに驚きました。(女性 弓道初段、なぎなた歴3年)
- ・なぎなた指導者として、なぎなたを伝えていく人々の育成、選手の育成にもっと力を入れていきたいと思いました。(女性 四段)
- ・今回の研修で、指導の仕方や、演技の見方を学ぶことが出来ました。改めて競技者の目線と指導者の目線の違いを感じました。将来は指導者になりたいと思っているので、大変勉強になりました。(女性 初段)
- ・中・高校生をモデルとした演技では、指導者の視点で実践的に考えることができました。先生方の話を聞いて、自分が気づいたこと、気づくことができなかったことが良くわかりました。教えることの難しさを改めて実感し、将来指導者を目指すに当たって自分自身に必要なものを学べた良い経験になりました。(女性 二段)



中学生・高校生の協力による授業の想定



中学生・高校生の協力による授業の想定



今浦講師によるポイント指導



中学生・高校生への指導